

海に向かって合掌 雄勝、牡鹿地区 慰霊碑建立

明日へと響け 復興のつち音

このコーナーでは、石巻の復旧や復興の様子を紹介します

雄勝、牡鹿の各地区で3月11日、市が整備した慰霊碑の除幕式が行われました。ともに独創的なデザインのモニュメントを併設し、震災記憶の伝承と追悼の思いを表しています。参加者は、海に向かって合掌できるように設置された慰霊碑に、静かに献花するとともに、地域の復興への思いを新たにしました。

合掌をイメージしたモニュメント



3.11を形にした柱



雄勝地区慰霊碑「祈りの塔」

雄勝地区慰霊碑「祈りの塔」は、雄勝町伊勢畑地区(硯浜)に造成された雄勝地区慰霊公園に建立。ステンレス製のモニュメントは高さ3.9mで、合掌する手の形をイメージしています。周囲には海側に3本、山側に11本の柱を立て「3・11」を表現。同じ公園内に京都伏見ロータリークラブから寄贈された「絆」と揮ごうした石碑の除幕も行われました。

絆の石碑も除幕



雨の中を献花



芳名板をなぞる参加者



アーチ形のモニュメント



牡鹿地区慰霊碑「牡鹿祈望の輪」

牡鹿地区慰霊碑「牡鹿祈望の輪」は、海沿いの大原浜の牡鹿地区慰霊公園にあります。モニュメントは芳名板を取り囲むような高さ2.8mのコンクリート製アーチ形です。発震の3月11日午後2時46分にアーチの切れ目から日の光が差し込み、芳名板と小さな石碑を貫くように設計されています。